

保存版

津波ハザードマップ

No.1【両前寺・平沢地域】

国の新たな指針に基づき、秋田県沿岸地域に「津波災害警戒区域」が指定され(令和5年3月)、浸水想定水位が更新されました。それに伴い、にかほ市では新たな津波ハザードマップを作成しました。このマップをもとに、避難経路と避難先を計画しておくなど、災害への備えを日頃から心がけていただきますようお願い申し上げます。



防災情報の入手

災害発生情報、防災行政無線の放送内容、行政情報などを、スマートフォンアプリ、防災あんしんメールでお知らせします。ぜひ、ご利用ください。

スマートフォンアプリ[atInfoCanal]

右の二次元コードからアプリをインストール後、(通知の送信を許可)(利用規約の同意)(位置情報の使用許可)を設定します。受信情報選択ページの「五十音順で追加」ボタンでにかほ市を選択し、「放送確認」にチェックのうえ登録します。



スマートフォンアプリ[LINE]

LINEアプリで、にかほ市公式アカウントを友だち追加してください。



防災あんしんメール

登録に関する市公式HPをご確認ください。



防災行政無線テレホンサービス

屋外放送の内容を電話で確認することができます。

☎ (0184) 62-9988

WEB版ハザードマップを活用しよう!

スマホやパソコンからいつでもどこでも【より詳細な】ハザードマップが確認できます!

にかほ市WEB版ハザードマップ

検索
 ・スマホのGPSを利用して**自分の居場所を中心に**表示可能!
 ・PCからの閲覧では印刷機能を使い、**自宅・学校・勤務先**などを中心とした**【自分だけのハザードマップ】**が印刷できます!

発行 令和7年3月

にかほ市 総務部 防災課

にかほ市象潟町字浜ノ田1番地 TEL 0184-43-7504(直通)

地震対策について

地震の時はどのように行動したらいいか?

地震の揺れを感じた場合、あるいは緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずまずは身の安全を確保してください。そして、落ち着いてテレビやラジオ、携帯電話やスマートフォンのワンセグやネット通信機能など、様々な手段を使って正確な情報の把握に努めましょう。

家庭で屋内にいるとき	人が大勢いる施設(大規模店舗などの集客施設)にいるとき
<ul style="list-style-type: none"> ●家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。 ●あわてて外に飛び出さない。 ●料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う。 ●従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる。 ●吊り下がっている照明などの下から退避する。 ●あわてて出口や階段に殺到しない。
エレベーターに乗っているとき	屋外にいるとき
<ul style="list-style-type: none"> ●最寄りの階で停止させて、すぐに降りる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる。 ●ビルや看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる。
山やがけ付近にいるとき	鉄道・バスに乗っているとき
<ul style="list-style-type: none"> ●落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●つり革や手すりにしっかりとつかまる。
自動車運転中	大都市で地震に遭遇した時
<ul style="list-style-type: none"> ●あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす。 ●ハザードランプを点灯して周囲の車に注意を促し、道路の左側に停止する。 	<p>まずは、身の安全を確保した後、むやみに移動を開始しないことが基本!安全な場所にとどまることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●道路では余震で頭上から物が落下してきたり、道中に火災が起こっていたりするなど、数多くの危険が予想されますので、安全な場所からはむやみに移動しないようにしましょう。 ●駅周辺等大混雑している場所では、人が将棋倒しになる集団転倒が起きやすくなります。駅周辺には近づかないようにしましょう。 ●発生3日程度は火災の発生や救助、救急活動優先のため、混乱状態が続きます。まず身を守るために安全な場所にとどまることを考えよう。

出典：首相官邸ホームページを加工して作成

非常用持ち出し袋および備蓄品

災害の「備え」チェックリスト に✓を入れて確認しましょう。

非常用持ち出し袋 避難の際に持ち出すもの!

<input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 食品 (ご飯(アルファ米など)、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど：最低3日分の用意) <input type="checkbox"/> 防災用ヘルメット・防災ずきん <input type="checkbox"/> 衣類・下着 <input type="checkbox"/> レインウェア <input type="checkbox"/> 紐なしのズック靴 <input type="checkbox"/> 懐中電灯(※手動充電式が便利) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(※手動充電式が便利) <input type="checkbox"/> 予備電池・携帯充電器 <input type="checkbox"/> マッチ・ろうそく <input type="checkbox"/> 救急用品 (ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など) <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> ブランケット	<input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> ペン・ノート <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 手指消毒用アルコール <input type="checkbox"/> 石けん・ハンドソープ <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 貴重品 (通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど)
---	--

感染症対策にも有効です!!

一緒に持ち出そう!!

子供がいる家庭の備え		
<input type="checkbox"/> ミルク(キュータイプ) <input type="checkbox"/> 使い捨て哺乳瓶 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> 携帯オットリー	<input type="checkbox"/> 子供用紙オムツ <input type="checkbox"/> お尻ふき <input type="checkbox"/> 携帯用お尻洗浄機 <input type="checkbox"/> ネックライト	<input type="checkbox"/> 抱っこひも <input type="checkbox"/> 子供の靴
女性の備え		
<input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> おりものシート	<input type="checkbox"/> サニタリーショーツ <input type="checkbox"/> 中身の見えないごみ袋	<input type="checkbox"/> 防犯ブザー/ホイッスル
高齢者がいる家庭の備え		
<input type="checkbox"/> 大人用紙パンツ <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 補聴器	<input type="checkbox"/> 入れ歯 <input type="checkbox"/> 入れ歯用洗浄剤 <input type="checkbox"/> 男性用吸水パッド	<input type="checkbox"/> デリケートゾーンの洗浄剤 <input type="checkbox"/> 持病の薬 <input type="checkbox"/> お薬手帳のコピー

備蓄品 お家に備えておくもの!

<input type="checkbox"/> 食料や水(最低3日分!出来れば1週間分)×家族分 保存期間の長いものを多めに蓄えておく、消費したら補充するという習慣にしていれば、常に食料の備蓄が可能! <input type="checkbox"/> 生活用品 例えば、ティッシュ、トイレトペーパー、ラップ、ゴミ袋、ポリタンク、携帯用トイレ...など

ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう。

監修：内閣府防災推進官(防災担当)、内閣府男女共同参画局
 「災害の「備え」チェックリスト」(首相官邸ホームページ) (https://www.kantei.go.jp/jp/content/00064513.pdf)を加工して作成

全体図【仁賀保・金浦地域】

津波災害警戒区域とは

最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域のことでです。

基準水位とは

津波浸水想定により公表された浸水深に、津波が建物等に衝突したときのせり上がりの高さを加えたものです。

津波災害警戒区域 (基準水位) 凡例

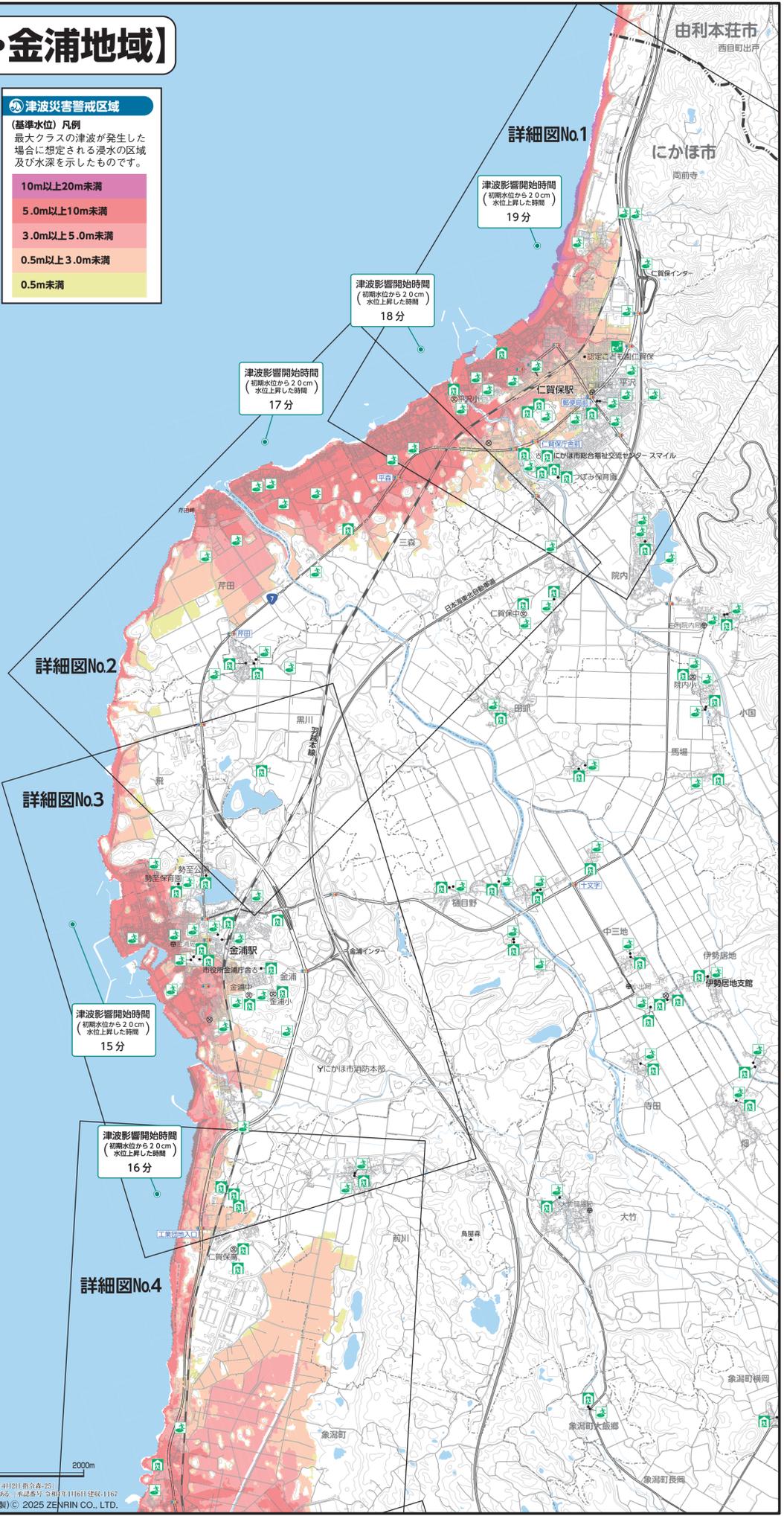
最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域及び水深を示したものです。

10m以上20m未満
5.0m以上10m未満
3.0m以上5.0m未満
0.5m以上3.0m未満
0.5m未満

記号の凡例

- 指定避難所
- 指定緊急避難場所
- 津波避難ビル

日本海



津波対策について

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

種類	発表される津波の高さ	取るべき行動	想定される被害
大津波警報	10m超 (10m<予想される津波の最大波の高さ)	巨大	沿海岸や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
	10m (5m<予想される津波の最大波の高さ≤10m)		
津波警報	5m (3m<予想される津波の最大波の高さ≤5m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
	3m (1m<予想される津波の最大波の高さ≤3m)		
津波注意報	1m (0.2m≤予想される津波の最大波の高さ≤1m)	—	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。

※大津波警報を「特別警報」に位置づけています。

津波警報・注意報と避難のポイント

- 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、局部的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。

出典：気象庁ホームページを加工して作成

津波の時はどのように行動したらいいか?

- 強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、また地震を体感しなくても、「津波警報」等を見聞きしたら、いち早く海岸から離れ、可能な限り高い場所へ避難してください。
- 海水浴等により海岸付近にいる人は、「津波注意報」でも避難が必要です。海からあがる、海岸から離れるなど、すぐに避難を開始してください。
- 避難をする時は、近くの高台や津波避難タワー、津波避難ビルなどに向かってください。
- 第一波の引いた後に家に戻り第二波にのみこまれ被害に遭ったケースや、余震により再度津波が発生するケースもあります。津波警報・注意報が解除され安全が確認されるまで決して被災地域には立ち回らないでください。
- 津波の災害から身を守るためには、日頃から津波に関する情報を収集したり、津波ハザードマップなどで家の周りの安全な避難場所を確認しておくことが必要です。
- 津波は想像を超える速さ、あるいは想像を超える場所からやってくることを認識しておきましょう。



出典：首相官邸ホームページを加工して作成

津波フラッグは避難の合図!!

津波警報等を知る手段に、令和2年夏より新しく津波フラッグが加りました。海岸で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難しましょう。

もしもの時のため、「津波標識」の確認を

津波の危険がある場所には、津波が襲う危険を示す「津波注意」標識や、避難場所、避難ビルを示す標識が設置されています。海の近くにいるときは、必ず避難経路と合わせて確認しておきましょう。



出典：気象庁ホームページを加工して作成